

A decorative graphic on the left side of the slide, consisting of several overlapping circles in shades of grey, red, and blue, with white circular cutouts.

2022年3月期

決算説明会

2022.5.27

ジーエルサイエンス株式会社

証券コード：7705

目次

1. 連結決算の概要
2. 次期業績見通し
3. 中期経営計画「挑戦」進捗



1. 連結決算の概要

ジーエルサイエンスグループ事業概要

売上高、営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益 ともに創業以来過去最高額を達成

分析機器事業

- ・国内はほぼすべての分野で増収 海外も主力製品が牽引し増収 売上高・営業利益ともに過去最高額を更新

半導体事業

- ・生産能力を最大限拡大し、過去最高レベルの需要に対応 売上高・営業利益ともに過去最高額を更新

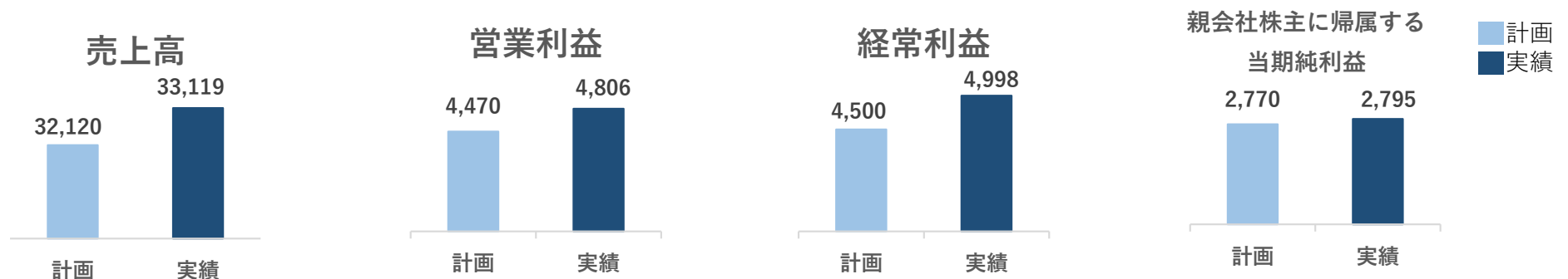
自動認識事業

- ・部品調達の長納期化に苦慮しつつも、医療関連装置の組み込み需要が好調に展開し、売上高は前期比増加

計画達成状況

※2021年10月28日発表比較

(百万円)



連結 決算実績

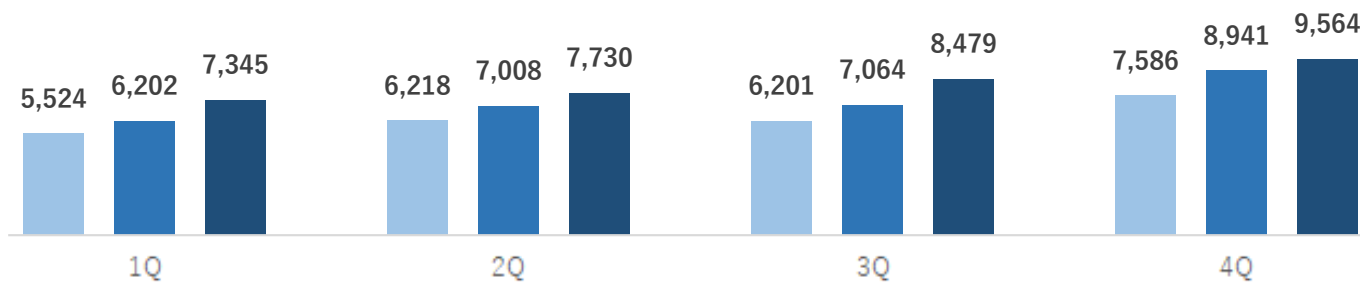
(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減比(%)	増減額
売上高	29,217	※ 33,119	13.4%	3,902
営業利益	3,846	4,806	25.0%	960
営業利益率	13.2%	14.5%	—	1.3pt
経常利益	3,915	4,998	27.6%	1,082
親会社株主に帰属する当期純利益	2,257	2,795	23.8%	538
1株当たり当期純利益 (EPS)	220.00円	272.45円	—	52.45円

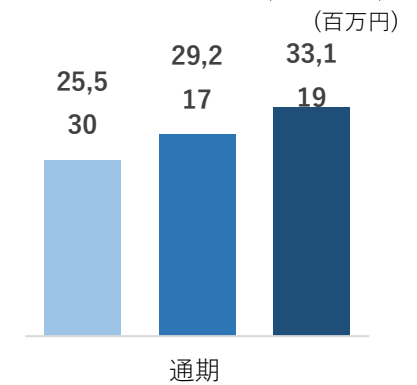
※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」を適用しており、従来の方法に比べて売上高が785百万円減少した数値となっております。

連結 四半期実績推移(過去3期比較)

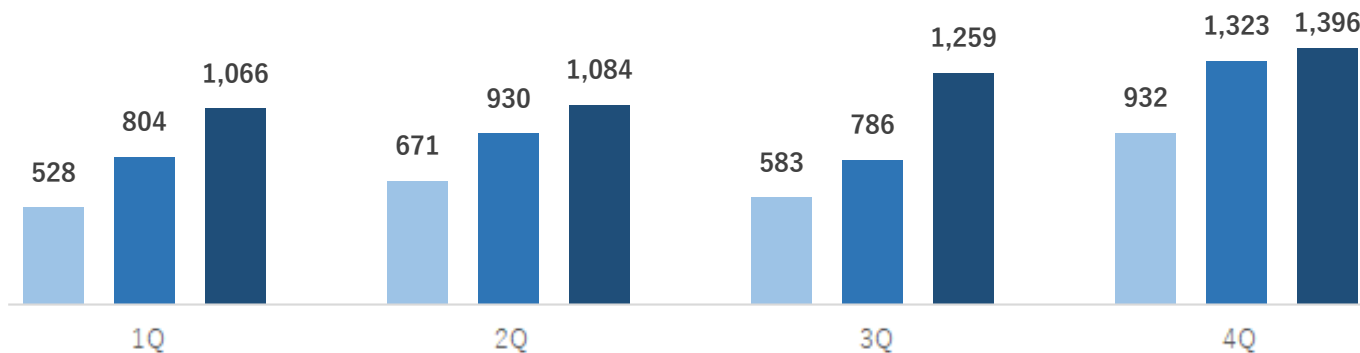
売上高推移(四半期毎) (百万円)
 ■ 2020年3月期 ■ 2021年3月期 ■ 2022年3月期



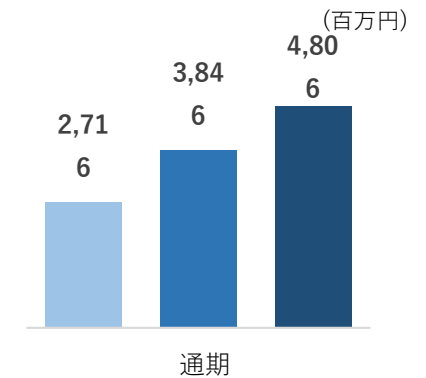
売上高推移(通期) (百万円)



営業利益推移(四半期毎) (百万円)
 ■ 2020年3月期 ■ 2021年3月期 ■ 2022年3月期



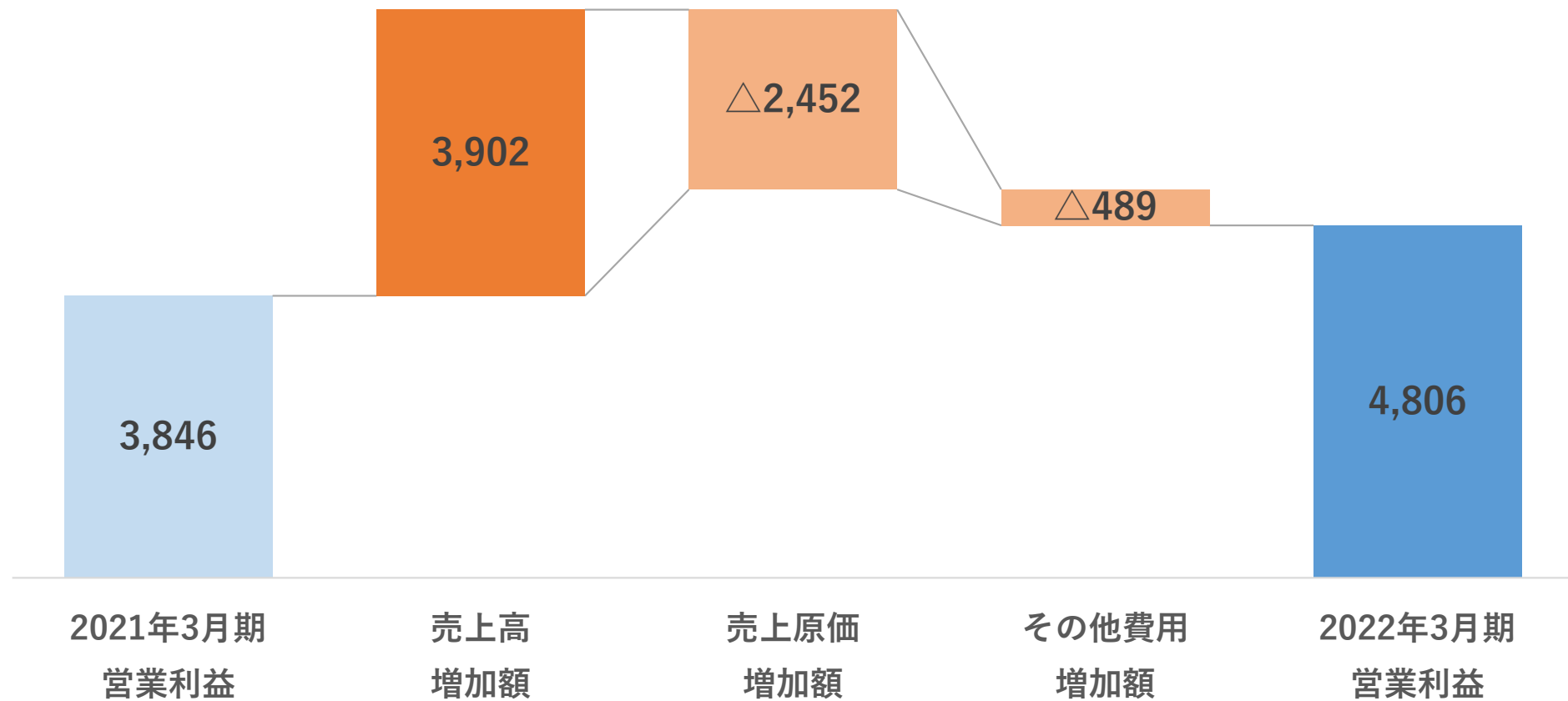
営業利益推移(通期) (百万円)



営業利益増減要因

◆ 営業利益：960百万円の増加

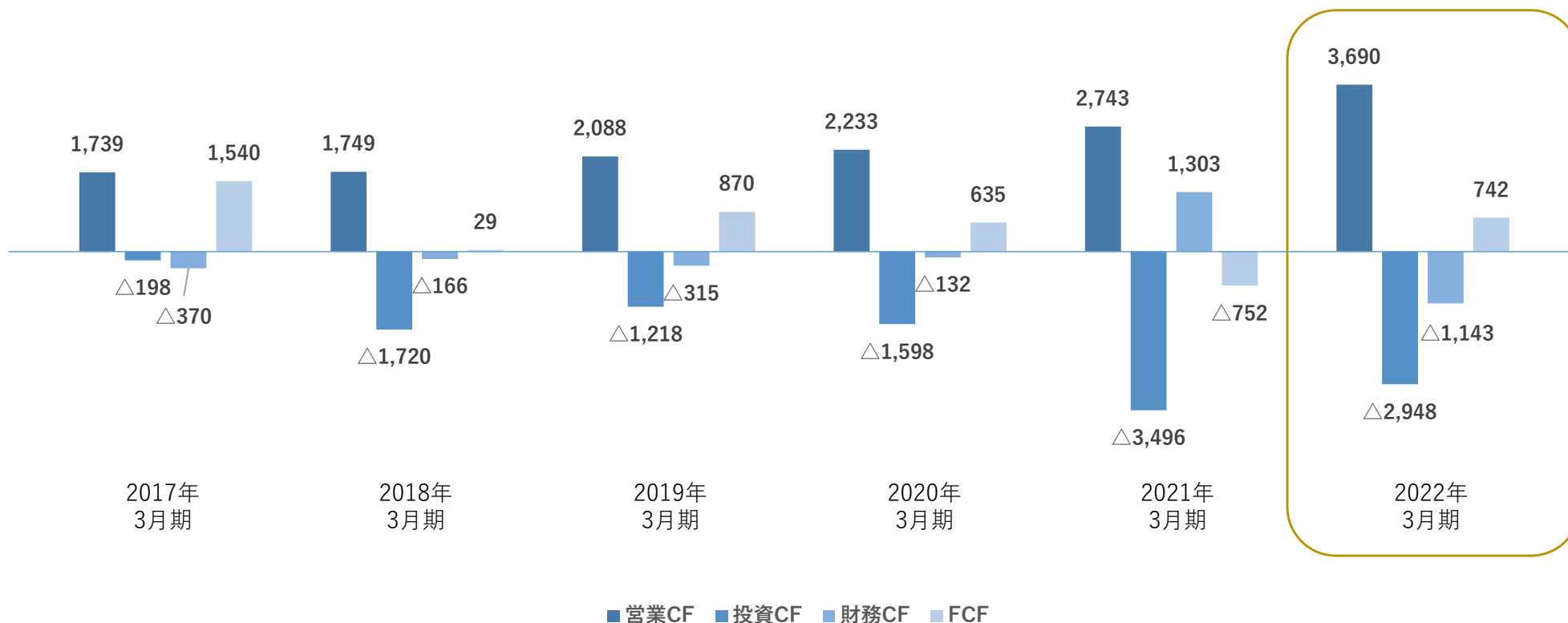
(百万円)



キャッシュフロー

- ◆ 当期純利益の増加等により、営業キャッシュフローは、3,690百万円
- ◆ 有形固定資産の取得等により、投資キャッシュフローは、△2,948百万円
- ◆ 長期借入の返済等により、財務キャッシュフローは、△1,143百万円

(単位：百万円)



セグメント別 決算実績

(単位：百万円)

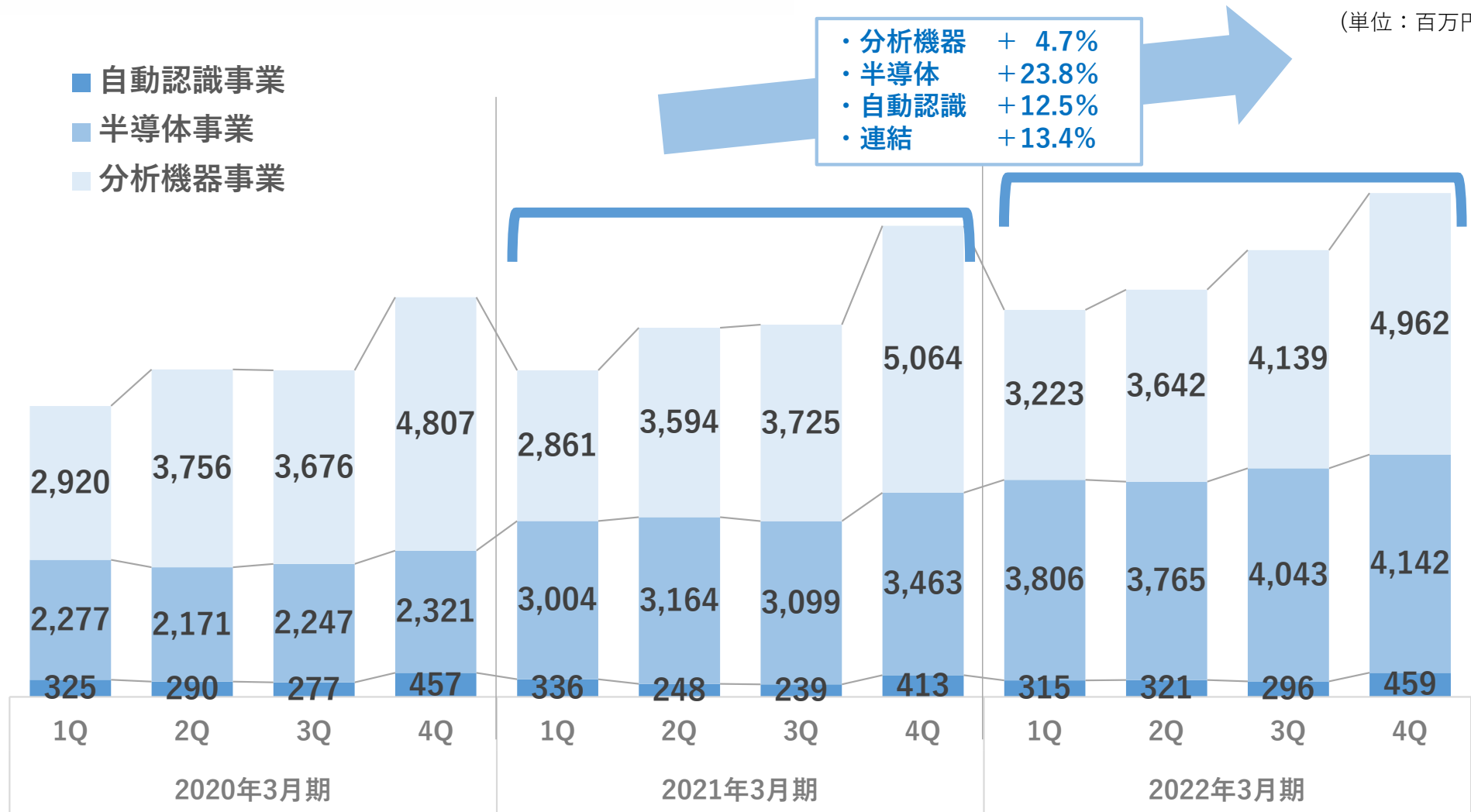
		2021年3月期	2022年3月期	増減比(%)	増減額
分析機器事業	売上高	15,246	15,968	4.7%	722
	営業利益	1,455	1,555	6.9%	100
半導体事業	売上高	12,732	15,758	23.8%	3,025
	営業利益	2,446	3,161	29.2%	715
自動認識事業	売上高	1,238	1,393	12.5%	154
	営業利益	△54	80	—	134
合計	売上高	29,217	33,119	13.4%	3,902
	営業利益	3,846	4,806	25.0%	960

セグメント別 売上高推移

(単位：百万円)

- 自動認識事業
- 半導体事業
- 分析機器事業

- ・ 分析機器 + 4.7%
- ・ 半導体 + 23.8%
- ・ 自動認識 + 12.5%
- ・ 連結 + 13.4%

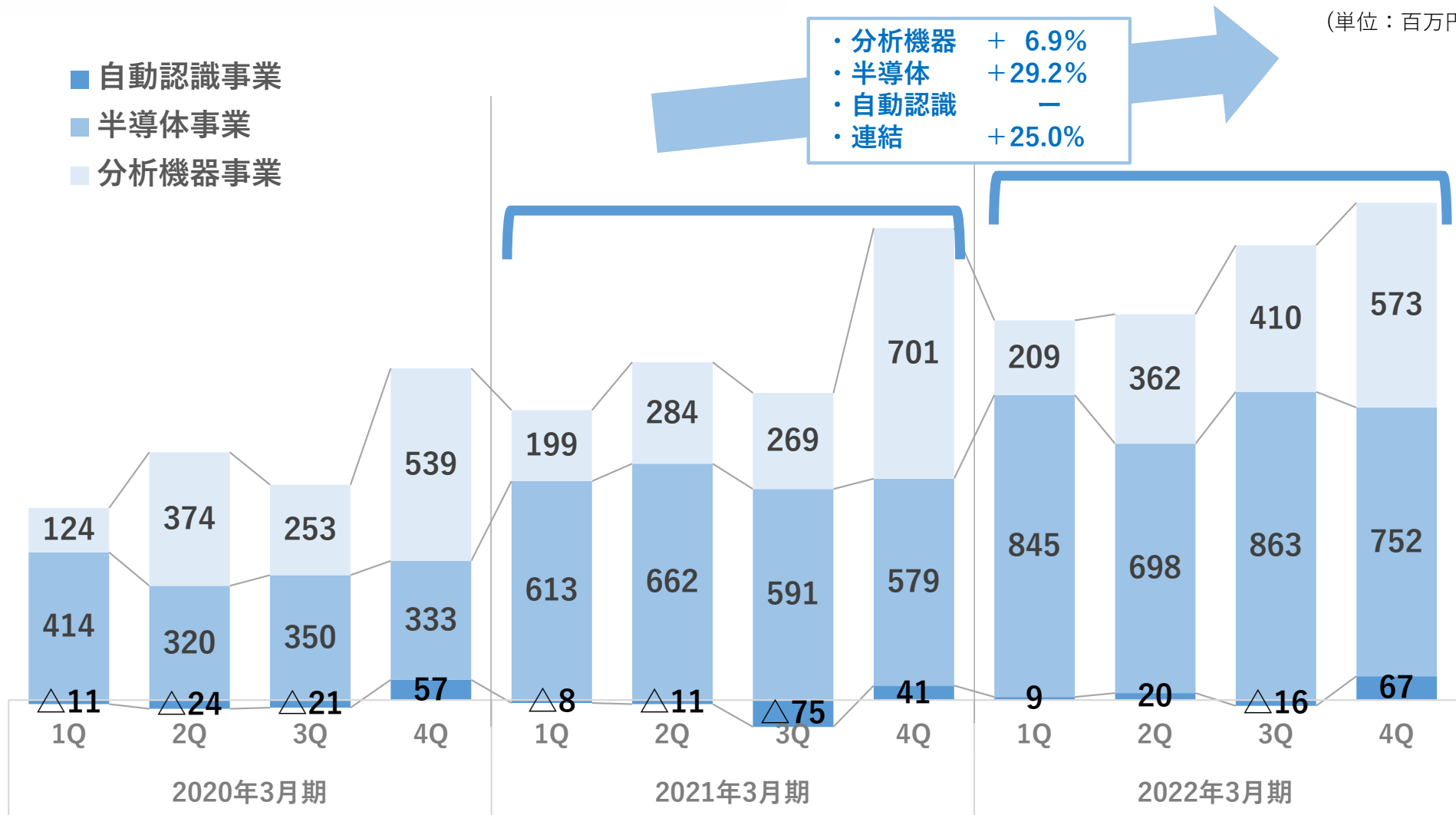


セグメント別 営業利益推移

(単位：百万円)

- 自動認識事業
- 半導体事業
- 分析機器事業

・分析機器 + 6.9%
 ・半導体 + 29.2%
 ・自動認識 -
 ・連結 + 25.0%

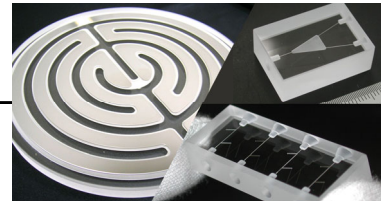


セグメント概要



48.2% **分析機器事業**

主に物質を分離して検出する化学分析手法の一つであるクロマトグラフィー関連製品の開発製造販売が主力事業。環境中の化学物質や、食品中の残留農薬などの規制、医薬品開発、製造業における品質管理など、様々な分野で使用されています。



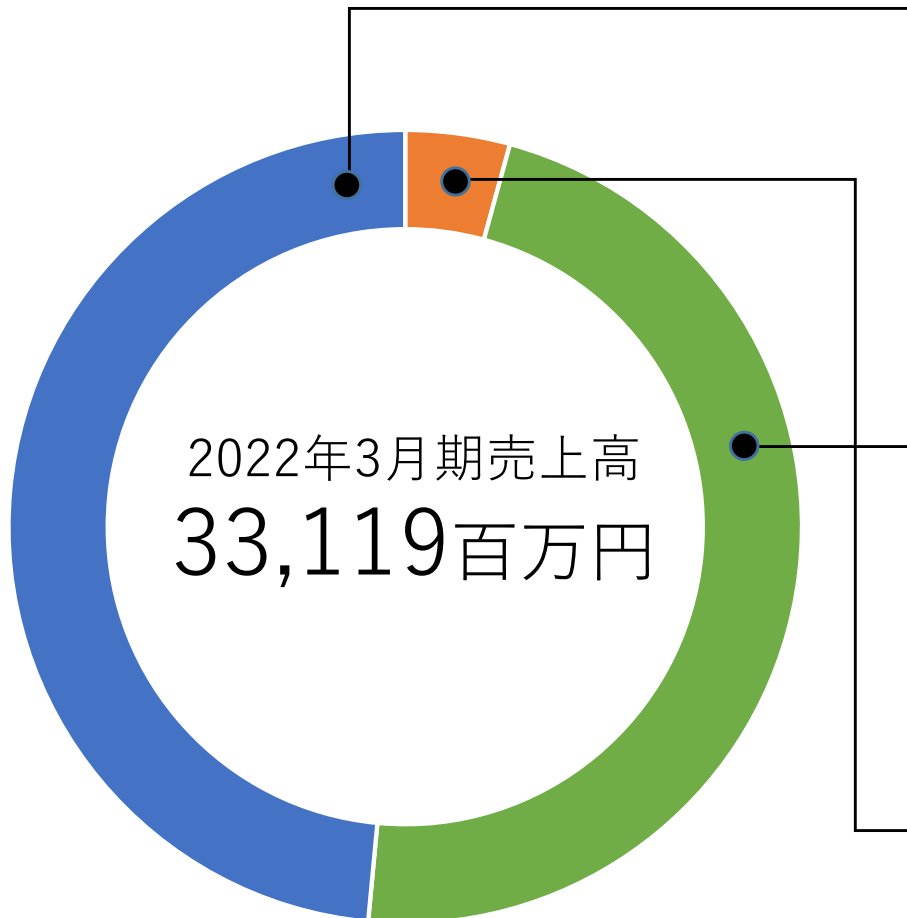
47.6% **半導体事業**

主に半導体・液晶の製造前処理工程の装置で使用される高精度石英ガラス、結晶シリコン材からなる精密加工消耗部品の製造及び販売が主力事業。



4.2% **自動認識事業**

RFID技術を使用した非接触 ICカードのリーダー及びライターを中心とした製品開発と販売が主力事業。



売上構成比
48.2%

分析機器事業 実績

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減比(%)	増減額
売上高	15,246	15,968	4.7%	722
営業利益	1,455	1,555	6.9%	100
営業利益率	9.5%	9.7%	—	0.2pt

製品ラインアップ



LC充填カラム



GCキャピラリーカラム



固相抽出カラム



ガスクロマトグラフ



水質測定装置



試料前処理装置

◇2022年3月期 実績に対して

- 装置及び消耗品の好調な販売に伴い
売上高・営業利益ともに過去最高額を更新

◇2022年3月期 トピックス

- 中国市場への分析研究所、販売拠点の設立
- 半導体の供給不足による納期遅延の影響は軽微
- 福島市ふるさと納税寄付

売上構成比
48.2%

分析機器事業 地域別売上高

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減比(%)	増減額	構成比
日本	12,190	12,519	2.7%	329	78.4%
北米	346	385	11.2%	38	2.4%
アジア	2,022	2,236	10.6%	214	14.0%
その他	687	826	20.2%	139	5.2%
合計	15,246	15,968	4.7%	722	100.0%

日本

消耗品

化学工業、機械工業、生化学、受託分析など、ほぼすべての分野で増収

装置

液体クロマトグラフ関連製品、ガスクロマトグラフ関連製品、システム関連製品、前処理関連製品が好調で増収

北米

北米

Eコマースの導入
Web 公告活用による新規顧客獲得
中米へのアプローチ

アジア

中国

上海ラボの開設
成都営業所の開設

インド

FDAの規制強化の影響で足踏み

ASEAN

デルタ株のロックダウン影響で伸び悩み

その他

欧州

LCカラムとGC周辺機器の販売が好調

オセアニア

環境分析関連機器の販売開始

中南米

LCカラム販売が好調

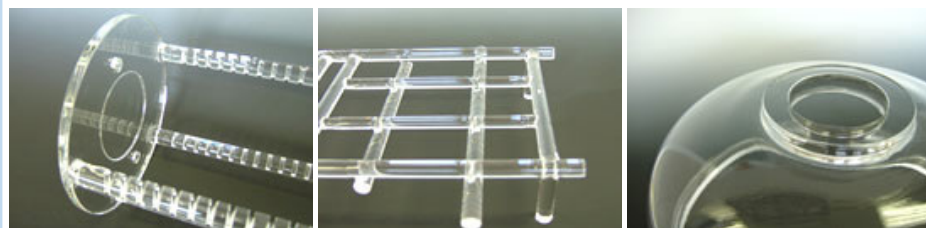
売上構成比
47.6%

半導体事業 実績

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減比(%)	増減額
売上高	12,732	15,758	23.8%	3,025
営業利益	2,446	3,161	29.2%	715
営業利益率	19.2%	20.1%	—	0.9pt

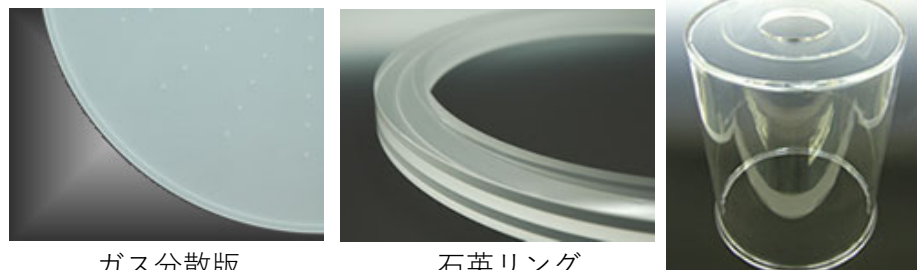
製品ラインアップ



縦型石英ポート

石英台座

ベルジャー



ガス分散版

石英リング

石英反応管

◇2022年3月期 計画に対して

- ・ 売上高、営業利益共に計画を大幅に上回り、過去最高の売上高、営業利益、受注残高を更新

◇2022年3月期 トピックス

- ・ 株価の年初来高値の更新
- ・ 中国第三工場の新設(2021年11月竣工)
- ・ 健康経営への取組開始
- ・ 山形市ふるさと納税寄付

売上構成比
47.6%

半導体事業 地域別売上高

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減比(%)	増減額	構成比
日本	7,001	7,440	6.3%	439	47.2%
北米	775	780	0.7%	5	5.0%
アジア	4,946	7,521	52.1%	2,574	47.7%
その他	9	15	66.7%	6	0.1%
合計	12,732	15,758	23.8%	3,025	100.0%

半導体事業 受注残の状況



	2021年3月期	2022年3月期	増減比(%)	増減額
受注残高	4,202	6,000	42.8%	1,798

◇2022年3月期 トピックス

- ・ 過去最高の受注残を更新

売上構成比
4.2%

自動認識事業 実績

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減比(%)	増減額
売上高	1,238	1,393	12.5%	154
営業利益	△54	80	—	134
営業利益率	△4.4%	5.8%	—	10.2pt

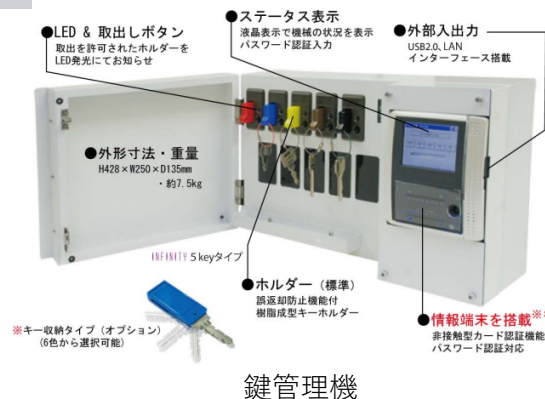
製品ラインアップ



卓上型リーダライタ



電気錠制御付リーダ



鍵管理機

◇2022年3月期 計画に対して

- ・ 売上高計画を達成
- ・ 部品の調達が困難となり、生産計画、販売計画に大きな影響を与えたが、各部署の連携と情報共有にて対処

◇2022年3月期 トピックス

- ・ 鉄道関連企業案件受注とサイバネティクス協会入会
- ・ 海外向けPC用R/W基板案件受注
- ・ PC/SC対応リーダライタ販売開始
- ・ 複数企業との協業模索

設備投資額・減価償却費・試験研究費

設備投資額

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減比 (%)	増減額
分析機器事業	2,301	343	△85.1%	△1,958
半導体事業	1,156	2,425	109.7%	1,269
自動認識事業	10	14	42.7%	4
合計	3,466	2,783	△19.7%	△683

減価償却費

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減比 (%)	増減額
分析機器事業	506	546	8.0%	40
半導体事業	590	608	3.0%	17
自動認識事業	32	2	△91.2%	△29
合計	1,128	1,157	2.5%	28

試験研究費

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	増減比 (%)	増減額
分析機器事業	664	668	0.5%	3
半導体事業	3	36	1077.2%	33
自動認識事業	85	78	△8.0%	△6
合計	753	783	4.0%	30

◆ 設備投資額

半導体事業：中国に第三工場を新設
(2021年11月竣工)

◆ 減価償却費

製造設備増強等により微増

2. 次期業績見通し

通期業績見通しの前提

外部環境

新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の進捗状況により、各国における経済活動の制限緩和や経済対策による需要の回復に地域差があり、また、ウクライナ情勢を受けた世界経済の悪化や、エネルギー価格の高騰、円安進行による物価高などにより、引き続き先行き不透明な状況が続くものと思われま

リスクについて

【原材料・燃料高騰の影響】

- ・ 製造費用や製品輸送に係る運賃上昇による事業環境への影響は不透明
- ・ 仕入れルートや代替原材料などリスク回避策を検討
- ・ 製品種類に応じて顧客への価格転嫁を実施

【為替変動の影響】

通常、他の通貨に対する円安は当社グループの事業に好影響となりますが為替予約、円通貨建て取引、現地生産体制、輸出入販売の均衡など為替変動リスクは最小限に抑える努力をしているためその影響は限定的となります。



連結業績見通し

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期(計画)	増減比 (%)	増減額
売上高	33,119	34,920	5.4%	1,800
営業利益	4,806	4,900	1.9%	93
営業利益率	14.5%	14.0%	—	△0.5pt
経常利益	4,998	4,960	△0.8%	△38
親会社株主に帰属する当期純利益	2,795	2,720	△2.7%	△75

セグメント別業績見通し

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期 (計画)	増減比(%)	増減額
分析機器事業	売上高	15,968	16,380	2.6%	411
	営業利益	1,555	1,600	2.8%	44
半導体事業	売上高	15,758	16,940	7.5%	1,181
	営業利益	3,161	3,220	1.9%	58
自動認識事業	売上高	1,393	1,600	14.9%	206
	営業利益	80	70	△13.5%	△10

分析機器事業 見通し

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期(計画)	増減比(%)	増減額
売上高	15,968	16,380	2.6%	411
営業利益	1,555	1,600	2.8%	44
営業利益率	9.7%	9.8%	—	0.1pt



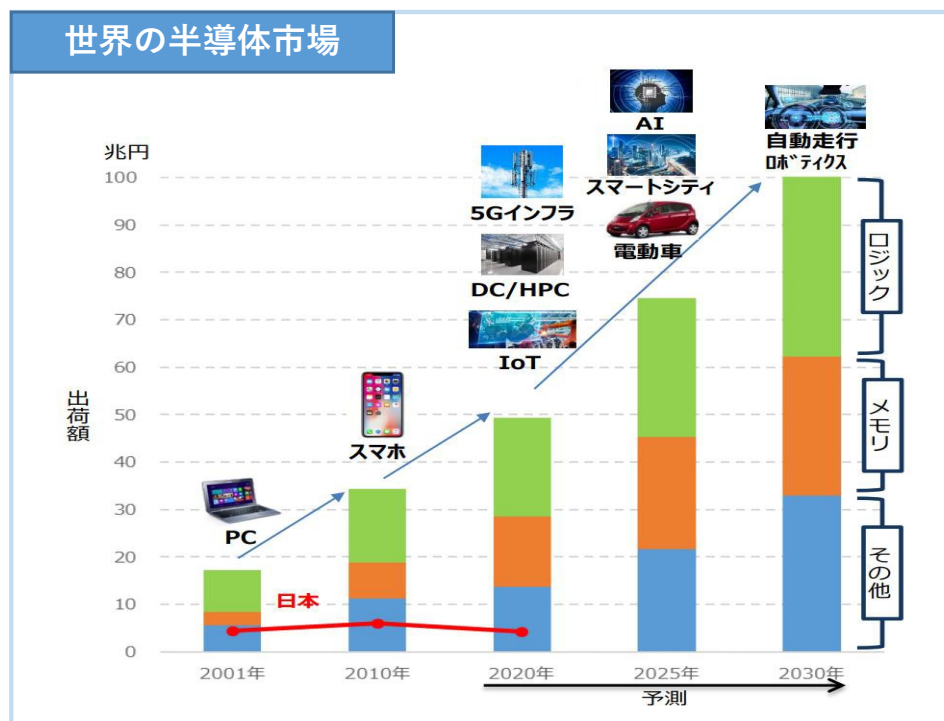
◇分析機器事業 今後の見通し

- ・ 販売力の更なる拡大を目指し、海外現地企業とのパートナーシップ管理強化並びに新規開拓
- ・ 中国・米国における現地法人を中心に新たな商材と販売網の確立
- ・ 製造技術開発の推進による品質の安定化、効率化、コスト削減
- ・ M & Aや業務提携、新規事業の探査など持続的成長の為の戦略的投資の継続
- ・ 部材の調達不安、原材料の高騰にともなう調達、納期およびコストに対するリスクマネジメント

半導体事業 見通し

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期(計画)	増減比(%)	増減額
売上高	15,758	16,940	7.5%	1,181
営業利益	3,161	3,220	1.9%	58
営業利益率	20.1%	19.0%	—	△1.1pt



◇半導体事業 今後の見通し

- ・ 「便利、安全、省力化、ビッグデータ活用、監視」など様々な場面で半導体が活用され、市場規模は2030年に100兆円以上と予測
- ・ 中国第三工場の本格稼働および更なる増産体制構築のための設備投資の継続
- ・ 既存取引先との深耕および新規取引先の需要掘り起こし
- ・ 従来からの微細化への対応

自動認識事業 見通し

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期(計画)	増減比(%)	増減額
売上高	1,393	1,600	14.9%	206
営業利益	80	70	△13.5%	△10
営業利益率	5.8%	4.4%	—	△1.4pt

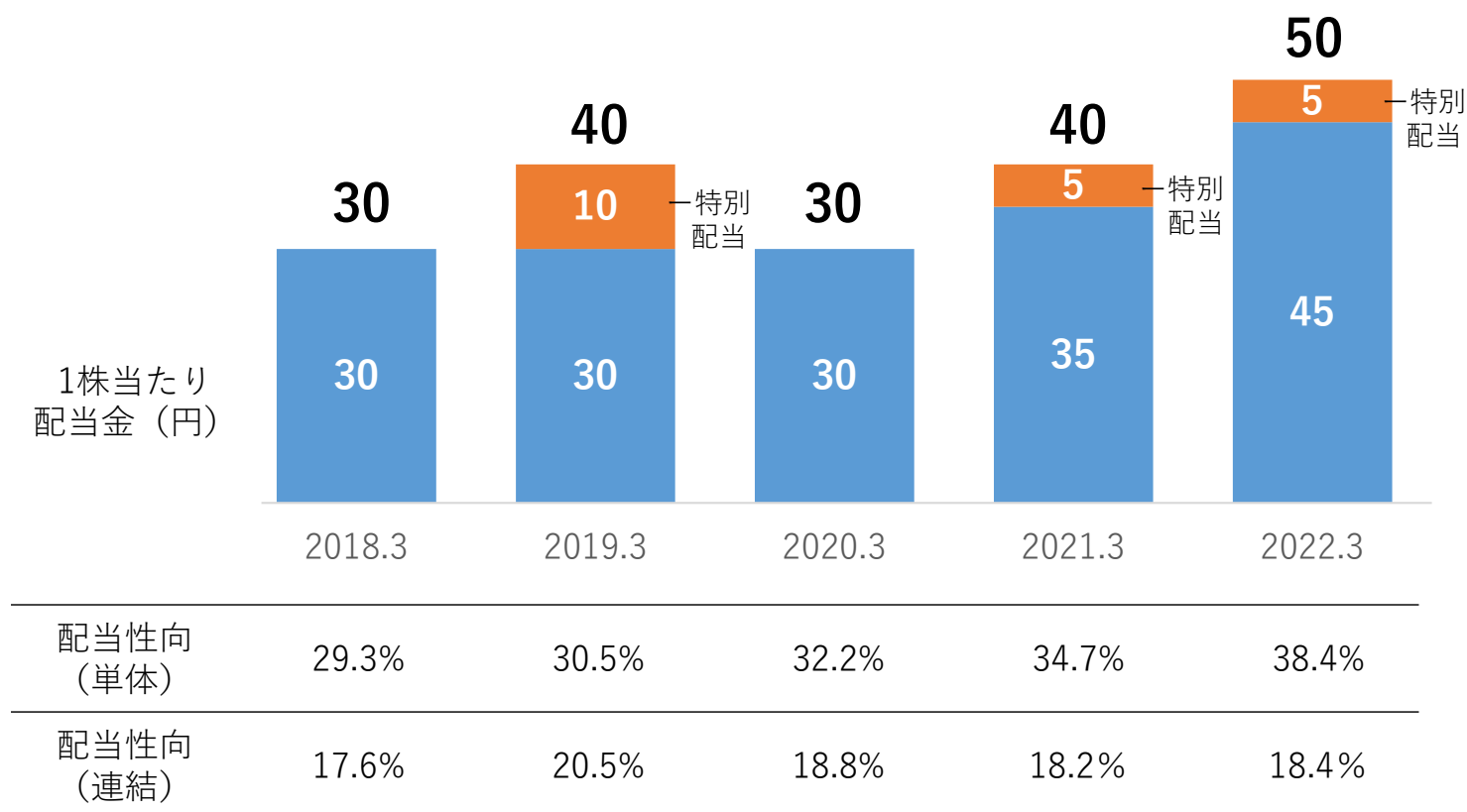


◇自動認識事業 今後の見通し

- ・ 電子決済やマイナンバーカード関連製品において要求される高いセキュリティ性にセキュアマイコン搭載製品を順次開発。今後の市場の変化に対応し今年度から発売を開始。
- ・ 従来の非接触ICカードやタグだけでなく、QRコードの利用を含めたスマートフォン連携が行える入退室管理製品の拡張。
- ・ 研究開発から製造・品質管理・販売活動までの一気通貫体制の構築を行い、より市場ニーズに見合ったソリューションを提供。

株主還元

利益配分は、当社の配当に関する基本方針に基づき、今後の事業拡大に向けた内部資金の確保と株主各位への長期にわたる安定的な配当を念頭に、財務状態、利益水準、配当性向などを総合的に勘案して実施



3. 中期経営計画「挑戦」進捗

中期経営計画の見直しについて



新計画

売上高	34,920百万円
営業利益	4,900百万円
営業利益率	14.0%

売上高	38,160百万円
営業利益	5,420百万円
営業利益率	14.2%

2022年3月期
実績

売上高	33,119百万円
営業利益	4,806百万円
営業利益率	14.5%

2021/5/11
発表

売上高	29,880百万円
営業利益	4,140百万円
営業利益率	13.9%

売上高	32,800百万円
営業利益	4,670百万円
営業利益率	14.2%

売上高	34,910百万円
営業利益	5,020百万円
営業利益率	14.4%

セグメント別 新計画

(単位：百万円)

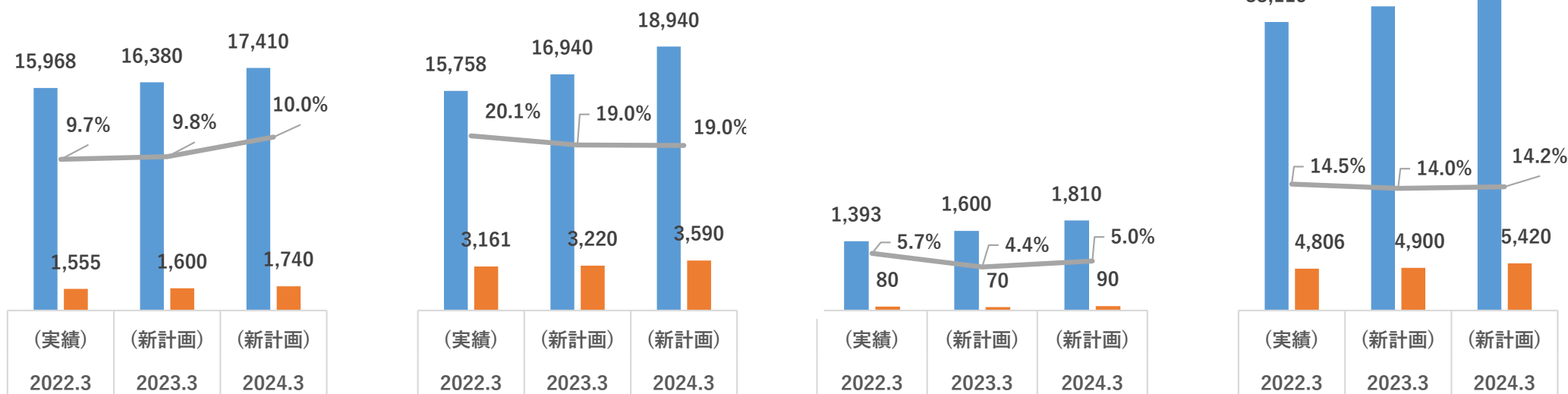
■ 売上高 ■ 営業利益 — 営業利益率

分析機器事業

半導体事業

自動認識事業

連結



		2022年3月期 (実績)	2023年3月期 (新計画)	2024年3月期 (新計画)
分析機器事業	売上高	15,968	16,380	17,410
	営業利益	1,555	1,600	1,740
半導体事業	売上高	15,758	16,940	18,940
	営業利益	3,161	3,220	3,590
自動認識事業	売上高	1,393	1,600	1,810
	営業利益	80	70	90
連結	売上高	33,119	34,920	38,160
	営業利益	4,806	4,900	5,420

進捗および今後の計画

アジア市場 拠点の増設



◆ 今後の計画

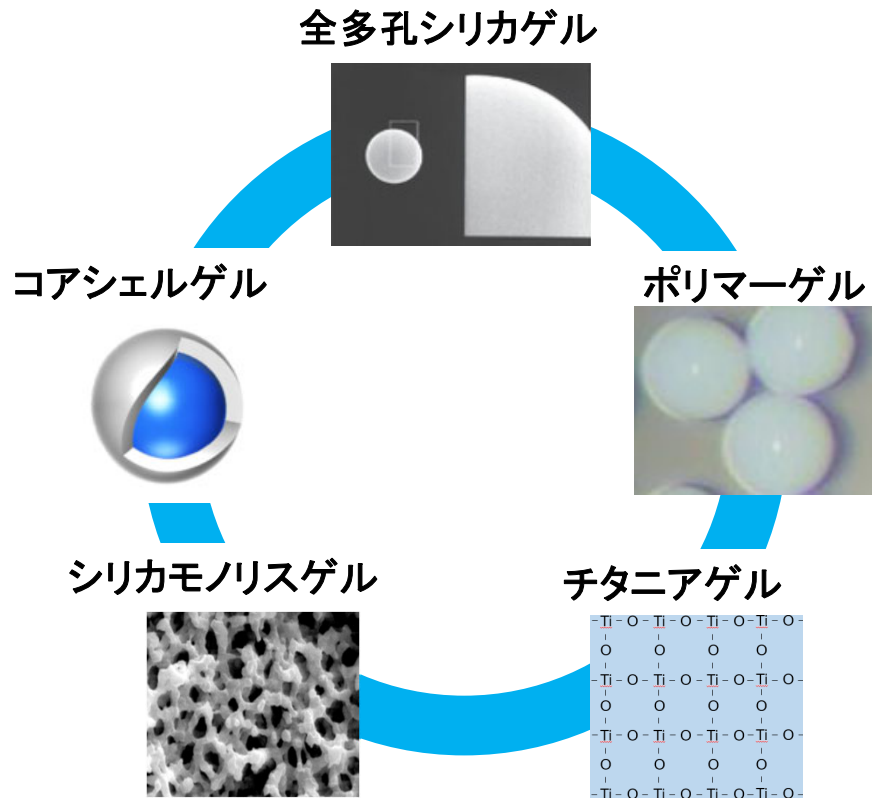
- 営業所の設立（広州）
- 東南アジア拠点の検討



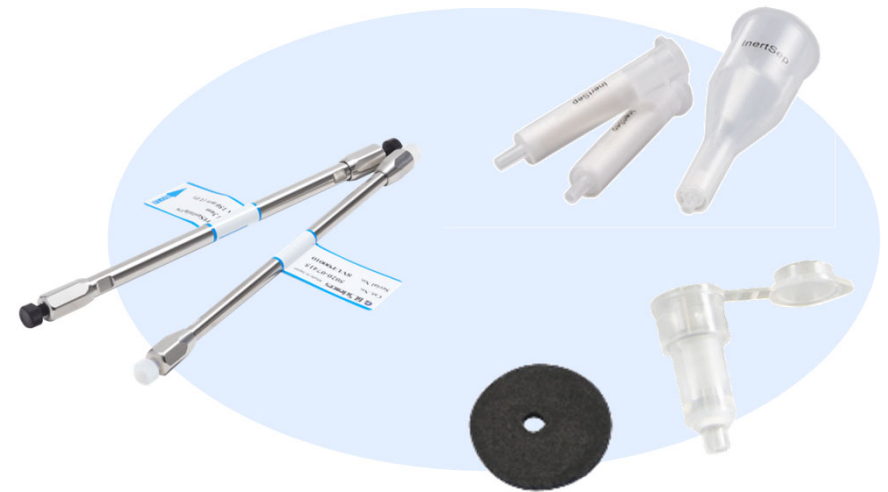
進捗および今後の計画

主力製品の強化及び収益力の向上

基材から全て自社にて開発・製造・合成



製品を長期にわたり安定供給



日本国内での一括管理体制

シリカゲルの合成	化学修飾	充填剤の検査	カラムへの充填	品質検査	出荷
優れた分級精度	様々な化学修飾基をラインアップ	ロット間の厳しい検査	独自の制御システムによる安定した充填	厳格な品質検査	豊富な在庫、正確な管理下で世界中へカラムを発送

進捗および今後の計画

海外販売製品の拡充



既存製品の
拡販

装置販売先および
現地サポートの拡充

体制構築



新製品の拡充

大気中PFAS分析用捕集装置
水中PFAS分析用固相抽出製品
迅速固相抽出用カラム

販売地域の拡充

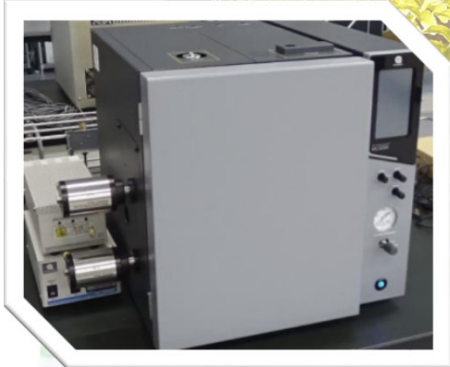
オセアニア地域など



進捗および今後の計画

システム製品の販売強化

エネルギー・カーボンニュートラルへの戦略 様々なガス分析への対応



水素関係



水素・窒素関係



バイオガス関係



アンモニア関係



合成燃料関係

進捗および今後の計画

システム製品の販売強化

自動車関連

車室内ガス分析



有毒成分基準以下である証明が必要
簡易に精度よく検知可能な
ツールが求められる



車内分析



アウトガス(揮発ガス)や吸着成分など
様々なにおいに対する
分析方法が求められる

燃料電池



燃料電池の開発では
各種ガス分析が
重要となります

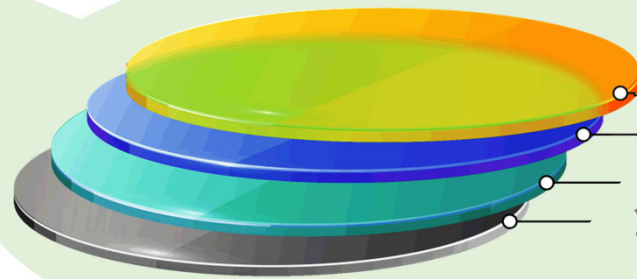
進捗および今後の計画

新たなビジネスの創出 InertMask

排ガス測定装置
石油関連への展開



InertMask



機能性被膜
ガラス被膜
酸化被膜
金属(ステンレスなど)

半導体製造関連への展開



分析市場への展開



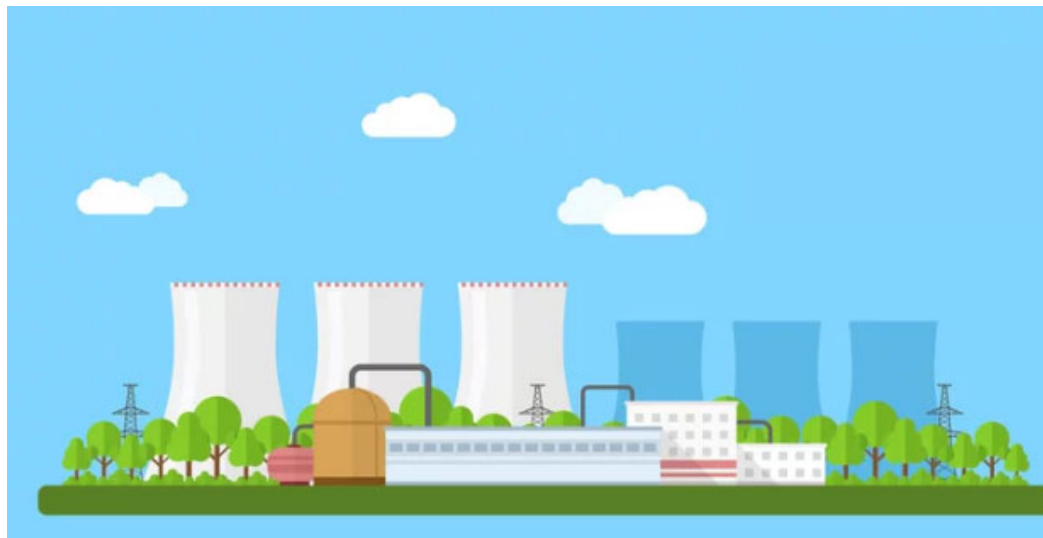
継手など部品への展開



新たな展開

進捗および今後の計画

原子力業界



廃炉関連 エネルギー再構築

- 無機関連製品 ●
- 自動化関連製品 ●
- 外部との共同研究 ●

放射性廃棄物の埋設関連



放射性廃棄物の分析関連



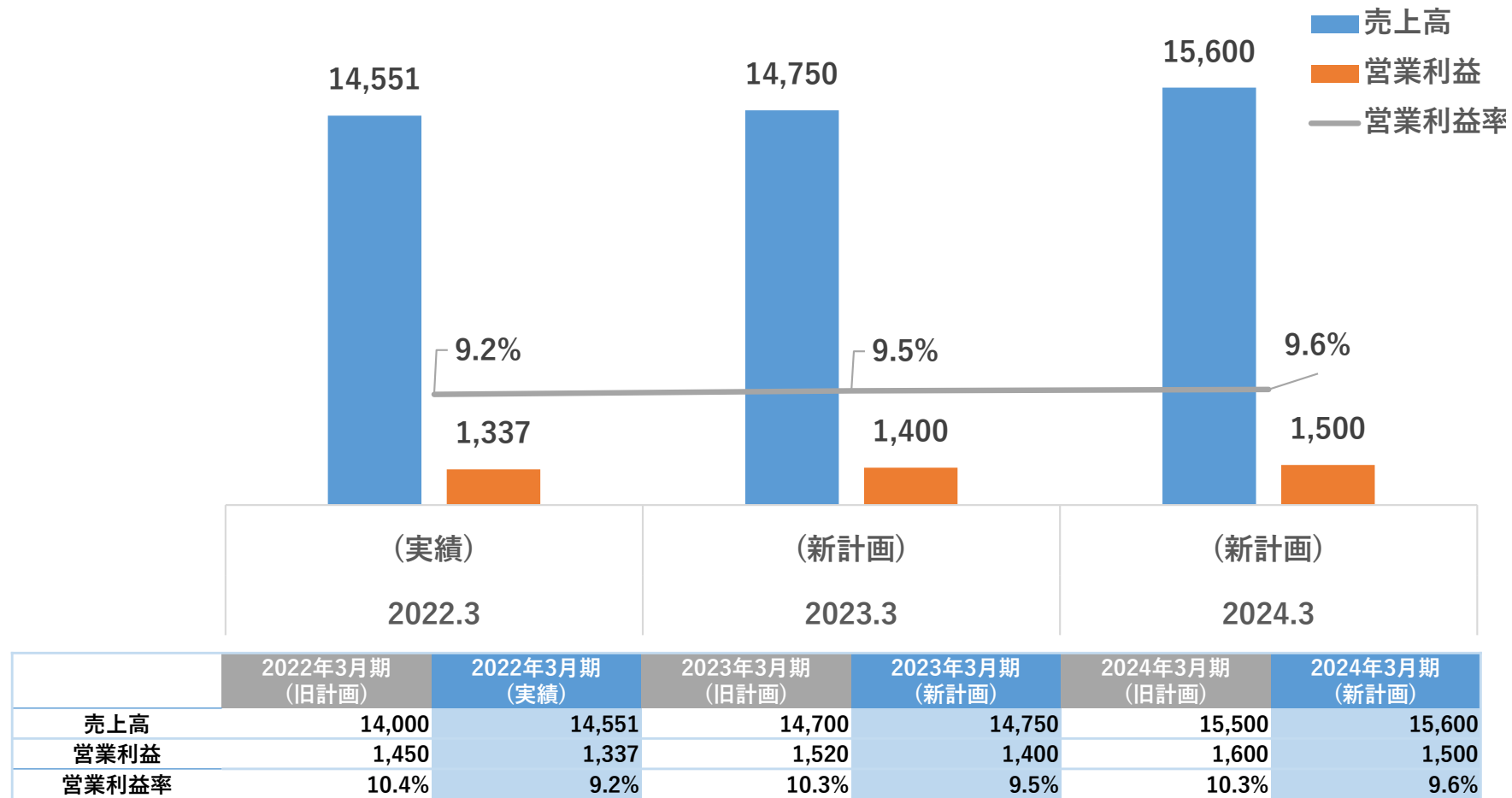
内部被ばくモニター関連



補足資料

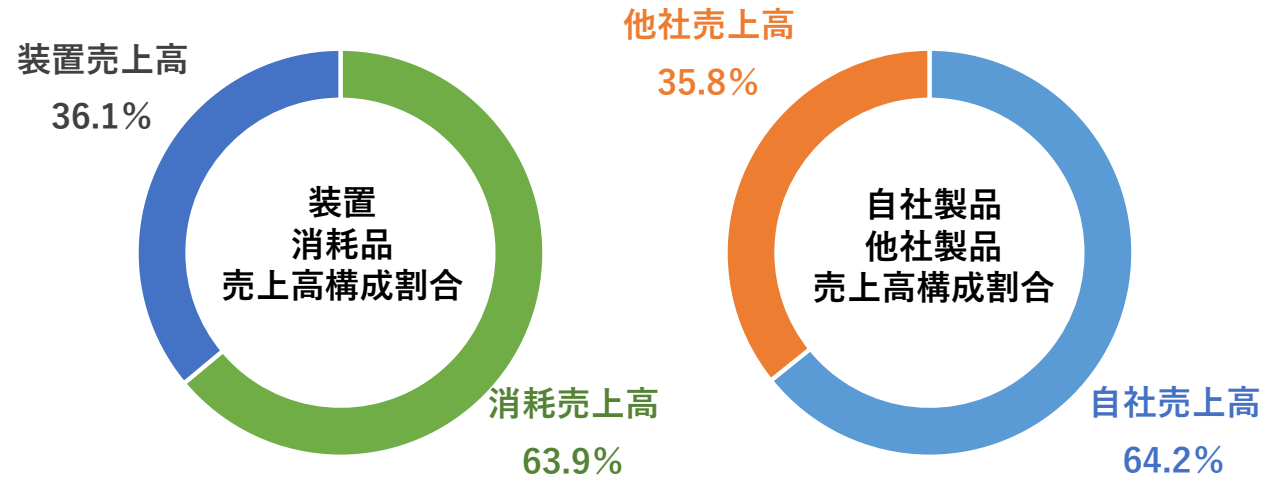
個別 経営目標

(単位：百万円)

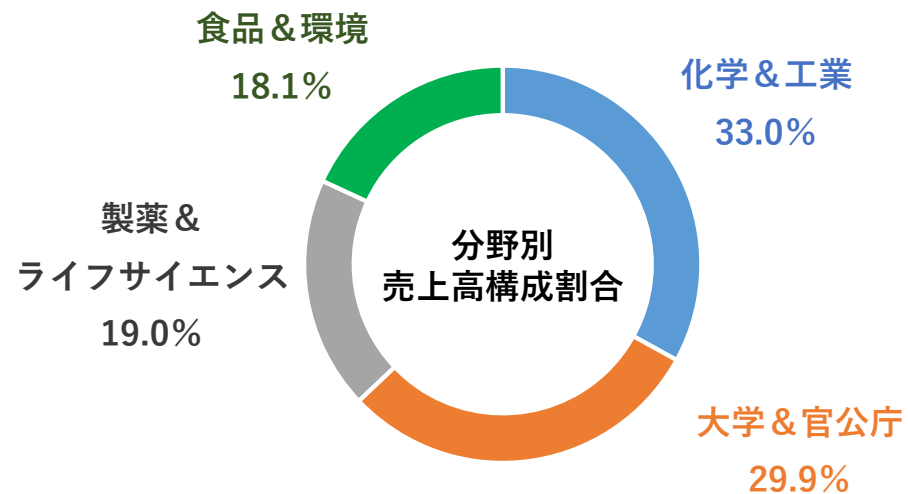


分析機器事業 販売形態別比率

分析機器事業
単体における
売上高構成割合



分析機器事業
単体(国内売上高)における
分野別売上高構成割合





あなたと一緒に地球の未来を考える。

We think about the future of the earth together.

ジーエルサイエンス。



免責事項

本資料に記載されている資料には、将来に関する業績の見通しを含みますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々なリスクや不確定要素に左右されるため、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。

本資料の著作権はジーエルサイエンス株式会社に帰属します。事前の承諾なしに著作物を使用することはできません。

ジーエルサイエンス株式会社

〒163-1130 東京都新宿区西新宿6-22-1

TEL : 03-5323-6633

FAX : 03-5323-6636

URL : <https://www.gls.co.jp>